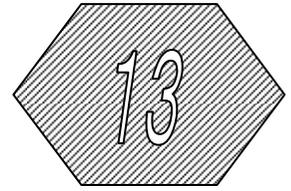


東京物語 STORY



2011年 8月6・7・8日 第142回学校体育研究同志会全国研究大会速報
東京大会実行委員会編集部

解会23の感想(続)

ダンス「舞踊表現」

「背骨の動き」を意識するのは、とても難しいと思いました。私達がふだん「姿勢を正して」「体育すわり」と子どもたちに言っていることが、実にあいまいなことだったということに気付かされました。「歩く」については、実際にやってみて(簡単なのに) だんだん面白くなるのが実感できました。
Yさん(東京)

ダンスという概念を自分の中でとっばらうのにとっても時間がかかるかなと思っていたのですが、動いているうちに身体が解放されていくを感じだんだん動きもダイナミックになっていくんだなぁと嬉しくなりました。子どもが夢中になって踊る世界を私自身体感しながら子どもと踊ったり、歌ったり、身体を合わせて過ごしていけたら...と思いました。

Mさん

民舞「舞踊表現」

からだの使い方から段階的にむりなく教えていただき、子供への伝え方も「こうすればいいのか」と納得いくながれでした。馬をつけると楽しさ倍増でした。反面足の踏み方(跳び方でないのがびっくりでしたがこのほうが素敵です)が、いいかげんになるのがわかりました。踊りこみながら深めていきたいです。ありがとうございました。
Sさん(東京)

荒馬の地域性、伝承など、背景まで知ることによって、荒馬の奥深さに更に興味がわきました。子供にもただ踊りを教えるだけでなく、その踊りの意味や歴史を教える大切さを感じました。まずは自分がしっかり踊れるようになって、子供に還したいと思います。ありがとうございました。
Hさん(東京)



陸上「記録・競争」

リボンを腰につけて走る「忍者走り」に使う教具には、何がいいかを試してみました。重さ、長さで変化するので子どもたちが選択できるのもいいかなと思いました。楽しそうな教具なので使ってみたいと思いました。

Hさん（京都）

午後、午前中の疲れからなかなか分科会が始まらなかった。しかし始まったら忍者走りをどう学習に組み立てるか、「できる」は、「わかる」は、とねらいを考え、オリエンテーション1時間目にはどんなことを伝え、どう流すか、真剣な議論がなされました。この案を元に来年授業をやってみようかと前向きな話し合いがなされました。来年の愛知が楽しみです。

Iさん（京都）

水泳「水辺文化」

言葉で指導する。その言葉の受けとり方は、それぞれ違う。実技をしながら交流すると、その違いが見えてくる。当然、現場の子どもたちと、今大会に参加した先生たちでは違うとは思いますが、全国総会で、「これが同志会流というものはあるのですか。全国の仲間が持ちよることで、その時の像ができるのであって、次の瞬間、違うものがつくり出されているのでは？」に対する論議を思いうかべました。毎日の授業の場で、新しい価値をつくり出していく覚悟がいるのかなあと…。

Aさん（岡山）

健康教育の授業づくり

本当に勉強になりました。健康問題を環境や社会問題は、密接な関わりがありますが、今日の実践を聞いて、人を動かすのは、やっぱり人だということや心にふれる、人と人のつながりなど、保健室での関わりでポイントになる言葉や意味をたくさん教えていただきました。また、どちらが良い、どちらが悪いという見方ではなく、（社会の一面だけでとらえるのではなく）普遍的な視点を持つことが大切さ、これは、人との関わりの中でも、とても大切な見方だと思った。

Iさん（山梨）

村末実践、1年間の学習活動に6つの視点から構想し、いのち、というテーマに集約されていることがよく分かりました。その底流に、学びを綴ること、生活を綴ることで、互いを認め合い学びをさらに豊かにしていくことが素晴らしいです。具体的な実践例を聞いて改めて、科学的認識を、感動体験をとめないながら学ぶこと、集団の中で共感的に学ぶことで、学ぶことが楽しくなるのですね。ユニークな活動しくむことで、心も体もときはなす、経験も大切だと思いました。それらの活図を教師が自覚的・意図的にしくむことの大切さに気づかされました。

Nさん（三重）

体育理論の授業づくり

各先生方の考え方が多様で普段の固まった価値観を見直すキッカケになった。「あたりまえ」を「あたりまえ」で終わらせないよう、深く考えさせる授業作りが必要であると思った。

Kさん

体育理論の実践を考える上で“なんでだろう？”と素朴な疑問から学習をスタートできるような課題を設定することが大切だと感じた。そのために私たちが普段あたり前だと考えていることこそ課題に設定すべきだと思った。今日いくつかの提案がなされていたが一つ一つを自分の経験を振り返り考えていきたいと思う。

Yさん（宮城）

子ども・スポーツ・社会と学校づくり

響は演奏者にとって、自分探しの場所、自分が認められる場所であるという報告を聞き、また、人とつながる場所であるとも聞いた。この思いで太鼓を叩くからこそ、響の演奏には感動があるのだと思った。いつまでも、この思いを大切に活動をしてほしいと思った。

Yさん（和歌山）

生徒の自治集団を育てること、スポーツにおけるプレイ場面だけでなく、組織や社会の場面についても教えるということが大切だと、大学のゼミなどで学んだことがあったが、響さんの活動を知り、まさにこのようなことだ！と分かった。スポーツという文化をただ受け入れるだけでなく自分たちの要求からその文化に働きかけるような力を育てることが大切だなーと思った。

Iさん（宮城）

グループ学習

前半は、基調提案を受けて「技術認識の深まり」と「集団の質の高まり」の関係や結びつきについての議論だった。今までの分科会の議論は技術指導や教師の技術認識のことについてのところまでとどまっていたというか、うずを巻いていたというか…。今日はそのことを、自分は今まで何となく同じところにあり、表裏一体というか鏡（映し出されるもの）とぼんやり思っていたことがよくわかった。午後の分科会で、このことを実際の実践をふまえて話ができれば面白いと思いました。

Yさん（三重）

グループ学習実践を見る視点として、技術認識と集団の質、技術指導と集団づくりを統一的にとらえることは大切であると再認識した。グループ学習の深さは、同志会実践、運動文化論の理論の深さであるように思う。

Iさん（愛知）

子ども学校の2日目

おはようございます！
多摩川で朝の会です！



御岳山のロックガーデンで沢遊び中。水の冷たさに悲鳴が上がっています



子ども学校 神代ケヤキ
前でハイポーズ！

夜は花火で楽しみました！

